

連載 登録医のご紹介

ベルランド総合病院広報誌「ベルフォーラム」

Bell Forum

地域と職員とともに栄えるチーム

医療最前線

栄養管理室

2018
Spring
No. 59

TOPICS

地域医療懇話会を開催しました
第3回南大阪内科カンファレンス 講演報告
いづみ健老大学 市民公開講座にて講演
第112回近畿病歴管理セミナー 開催しました
International Conference on Cancer Nursing
(ICCN)2017に参加して

栄養管理室

安全

安心

美味しい

お食事で健康を支えます。

栄養管理と栄養食事指導

安心
の取り組み

管理栄養士は、NST 等のチーム医療の一員として他部門と連携しています。また、栄養管理計画書を作成し、患者さんのニーズに応え、栄養状態や健康状態などに着目した栄養管理を行うため日々努めています。管理栄養士は病棟配置ではありませんが、病棟担当制を取っているため、各病棟特有の疾患に対応できるように日々、栄養食事相談を行っています。

南5病棟(内分泌代謝科)

- 糖尿病教育
入院患者さん対象
集団栄養指導



- 他職種合同
カンファレンスの参加



西5病棟(小児科)、小児科外来

- 医師、看護師と協同し、1型糖尿病患児へカーボカウント※を導入した栄養指導を実施
- 離乳食の進め方などの食事相談

※カーボカウント…
毎食ごとの炭水化物(カーボハイドレート)の量を計算(カウント)する、糖尿病の食事療法

周産期部門

- 産褥婦への食事提供



- <その他メニュー>
- ・エビフライ ・ステーキ
 - ・握り寿司 ・うなぎの蒲焼 他

- 妊娠悪阻による食欲不振の食事相談
- 妊娠糖尿病の方に対する栄養食事指導
- 助産師、看護師等
スタッフ教育への参画

今年度は
「母乳と栄養」について
講師を努めました



給食管理

入院中の患者さんのお食事は、安全・安心で美味しい食事を提供するために同法人施設の「院外調理センターベルキッチン」より、**ニュークックチル方式**にて食事を配送し提供しています。

材料を下処理し、加熱調理したあと0~3℃まで急速に冷却して保管を行い、食べる直前に再加熱をする調理法。

ベルキッチンは、大量調理基準での安全管理はもちろん、厚生労働省が定めている院外調理での安全基準を満たしています。

平成16年12月に、製品の品質保証と品質マネジメントシステムの要求事項を規定した国際規格である「ISO9001」と、食品製造業における食品の安全性確保と、保証のシステムである「HACCP」の認証を取得し、登録されています。



院外調理センター ベルキッチン
(堺市西区)

安全
の保証

美味しさ
の追求

食欲不振に対する取り組み

化学療法の副作用や個々の疾患からくる食欲不振に対応するため、栄養補助食品のみに頼らず、患者さんに満足していただける食事を提供したいと考え、当院オリジナルの食事『サポート食』を平成25年9月に立ち上げました。少量でも常食と同等の栄養量が確保できるように工夫しており、患者さんからも「食べやすい」と好評を頂いています。



お寿司や炊き込みご飯等の味付きご飯、麺類、果物やゼリー類を様々な内容で盛り込んでいます。

チーム医療

栄養チーム、褥瘡チーム、緩和ケアチームに所属し、他部門と連携しています。



NST 活動について

NSTとは、(Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム)の略で、職種の壁を超え、患者さんの栄養サポートを行う多職種チームのことで、低栄養などによりチーム医療の介入が必要と判断された患者さんに最適な栄養療法を提案しています。当院では週1回の症例検討会(カンファレンス)と、病棟回診を実施しています。

糖尿病セミナー

入院中や外来通院の患者さん、地域の方を対象に年4回糖尿病セミナーを開催しています。

<平成29年に開催したセミナー>

- 4月「糖尿病と炭水化物」【管理栄養士】
「糖尿病について」【医師】
 - 6月「糖尿病と肥満」【管理栄養士】
「糖尿病と運動」【看護師】
 - 8月「糖尿病と間食」【管理栄養士】
「フットケア〜一緒に足を見よう〜」【看護師】
 - 12月「糖尿病と腎臓病」【管理栄養士】
「糖尿病と薬」【薬剤師】
- 【】：講師



ご自宅でのイメージが付きやすいように、セミナーに参加していただいた方には、実際に病院で提供している糖尿病食を食べていただいています。

次回は**平成30年4月**を予定しています!
お気軽にご参加ください。*詳細はP6「一般セミナー」をご覧ください。

第21回 ベルランド地域医療懇話会

10月21日(土)に第21回地域医療懇話会をベルランド総合病院地下1階AIFホールにて開催し、当日は71名の方にご参加いただきました。

本懇話会は、地域医療支援病院として年1回開催しており、地域の登録医の先生や医療従事者の皆さま方との交流が目的です。

今年は、病理診断科 部長 米田 玄一郎、緩和ケア科 部長 山崎 圭一、当院副院長 循環器内科 部長 片岡 亨が、当院の取り組みについてご報告させていただきました。

病理診断科の取り組み

病理診断科 部長 よねだ けんいちろう
米田 玄一郎

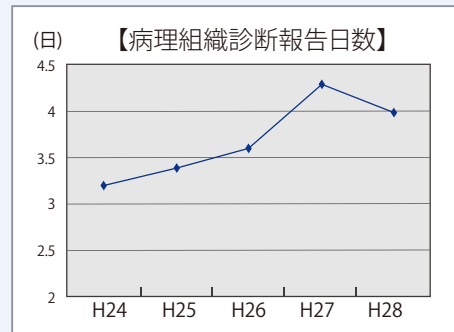
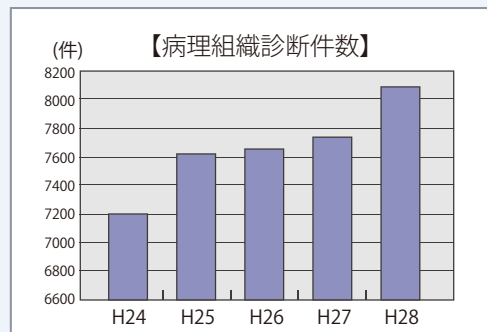


普段、目にされる機会の少ない病理診断科の診断業務を紹介させていただきました。

現在、常勤病理医 2 名、顧問病理医 1 名、非常勤病理医 1 名で病理診断業務を行っております。年間の検体数は病理組織診約 8000 件、術中迅速組織診約 300 件、細胞診約 9000 件に達しております。担当医の依頼事項に対し適切な病理診断と迅速な報告に心掛けており、平均 3.8 日で病理診断結果を報告しております。また詳細な病理診断を行う上で欠かせない免疫染色は、法人内施設間の連携で多岐にわたり実施が可能となっております。

今後到来する高齢化社会における悪性疾患の増加と、進歩する個別化治療に対する当院の急性期病院の役割を果たすべく、従来までの「病理診断」から「治療の選択に役割を担える病理診断」に脱皮してゆきたいと考えております。

当院を受診して頂いた患者様の期待になお一層応えられるよう、今後とも正確かつ迅速な病理診断に努力してゆく所存であります。



超急性期病院での緩和ケア科の役割 ～専門的緩和ケアと緩和ケア病棟について～

緩和ケア科 部長 やまさき けいいち
山崎 圭一



緩和ケアは終末期医療ではありません。緩和ケア＝終末期医療との誤解がありますが、緩和ケアはがんと診断された時から必要です。当院の緩和ケア外来は緩和ケア病棟の入棟面談だけではなく、専門的緩和ケアを当院だけでなく、他院通院中の患者さんに対しても提供しております。当院の緩和ケア病棟は決して看取りだけではなく、専門的緩和医療やケアを提供して、緩和医療・緩和ケアを行っております。

終末期がん患者さんの過ごす場所がすべて、緩和ケア病棟ではありません。全ての医療スタッフが、最期の話しだけをするのではなく、その人が治療しない病気に罹患した時、これからをどこで

どのように過ごすかを、患者さんやご家族の価値観を大切に、話しあうこと(アドバンスケアプランニング【ACP】)が大切です。

日本では、この10年間緩和ケアはがんに対するものでしたが、これからの10年は心不全など、非がんの緩和ケアに広がると予想されており、緩和ケア、ACPが非常に重要なものとなっていきます。当院緩和ケア科の役割は、この地域に真の緩和ケアの種をまき、真の緩和ケアの花を咲かせていくことが使命であると思っております。

当院における TAVR 治療の現況

副院長・循環器内科 部長 かたおか とおる
片岡 亨

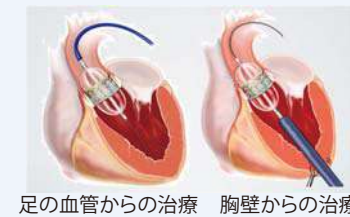


TAVRは重症大動脈弁狭窄症に対する、カテーテルを用いた開胸しない弁置換術であります。高齢あるいは COPD、肝硬変、開心術の既往などの合併症があり、これまでは外科治療の選択肢がなかった患者さんへの福音となる低侵襲治療です。

当院では2017年3月に施設認定を受け、既に19名の治療を無事に行っております。80代後半の心不全と失

20名前後のハートチームが、治療適応だけでなく、治療後のリハビリを含めた生活プランを相談をしながら、最新鋭のハイブリッド手術室で治療を行っております。

高齢や、低下したADL(日常生活動作)のため治療方法が無いと思われていた方、あるいは初めて弁膜症を指摘された方など、ご紹介頂ければ幸いです。紹介窓口として循環器内科(片岡/毎週木曜日)、心臓血管外科(小谷/第1・3・5週土曜日)が担当する**低侵襲心血管治療外来**を設けております。



神発作を繰り返す女性は、TAVR治療後に強心薬持続点滴から離脱し、自覚症状もなく自宅で通常の生活に戻られたという方も経験しております。

外科、内科、麻酔科と多職種のコメディカルから構成される総勢



TAVR施行にあたり結成されたハートチーム

登録医のご紹介

やまもと消化器内視鏡・外科クリニック 山本 篤 先生

やまもと あつし

消化器内科、消化器外科、乳腺外科

痛みの少ない内視鏡検査
(胃カメラ・大腸カメラ)
を迅速に致します。
また、外科領域の診療も
専門としています。



星座：魚座 血液型 0型
趣味：テニス・ゴルフ・スキー

住所：堺市北区中百舌鳥町2丁2
TEL：072-275-9907

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	/	●	●
13:00～15:00 (大腸内視鏡検査)	/	●	/	/	●	/
16:00～19:00	●	●	●	/	●	/

【休診】木曜、土曜午後、日曜、祝日

Q. 医師を目指したきっかけは？

小さい頃から機械などの仕組みがどうなっているかに興味があり、人間のからだの中身に興味がわき、医師(外科医)を目指しました。

Q. 診察の際に心がけていることは？

的確な診断とわかりやすい説明により、納得していただける医療を目指しています。

Q. 地域医療について

気軽に精度の高い内視鏡検査や、超音波検査を受けていただけるようにしています。

Q. ベルランド総合病院への希望・要望

外来化学療法なども積極的に受け入れますので、逆紹介をお願いいたします。

Q. 最後に一言お願いいたします

腹部疾患については、診断から治療(手術)、術後治療・経過観察をこなしてきました。胃がん手術に関しては日本内視鏡外科学会技術認定医で、ロボット支援手術も術者として経験があり、現在も木曜日に住友病院にて手術を担当しています。紹介・逆紹介の地域連携は積極的に受け入れます。

新規登録医

登録件数 407 件
H29.11.27 現在

西区	松本歯科医院 まつもと わたる 松本 航 先生
中区	ふじわらしんいち総合クリニック ふじわら しんいち 藤原 進一 先生
大阪狭山市	おがわクリニック おがわ りつこ 小川 律子 先生
大阪狭山市	今井クリニック いまい たつゆき 今井 達脩 先生
和泉市	おおうえこどもクリニック おおうえ しんや 大植 慎也 先生
和泉市	もりわき小児科 もりわき こうせい 守脇 孝成 先生
和泉市	よしざきクリニック よしざき けんいち 吉崎 堅一 先生

医療従事者向け セミナー

2月10日(土)	ベルランド看護セミナー (ベルランド総合病院 AIF ホール)
2月26日(月)	Belland Rehabilitation Seminar (ベルランド総合病院 AIF ホール)
3月15日(木)	第4回南大阪内科カンファレンス (ベルランド総合病院 AIF ホール)
3月17日(土)	第6回泉北地区認知症カンファレンス (ベルランド総合病院 AIF ホール)

一般向け セミナー

糖尿病セミナー

下記の日程で糖尿病セミナーを開催いたします。
病院食を召し上がりながら、糖尿病について学びましょう!

4/14 (土)
12時開始
(11時45分開場)

●『糖尿病について』
内分泌代謝科 医師

●『食事療法の基本』
管理栄養士

★食事に限りがありますので、先着20名様になります。
(申し込みは1か月前より承ります。)

★受講料【保険適応：240円 実費：500円】+食事540円

みなさんのご参加お待ちしております!

お問い合わせ先：ベルランド総合病院 内科外来
または栄養管理室

Topics

2017年9月14日 『Diabetes Seminar in Sakai 2017』を開催しました

講演1:「当院におけるSGLT2阻害薬の使用経験」
ベルランド総合病院 内分泌・代謝科 原 知之



原 知之



松田 昌文先生

講演2:「2型糖尿病における薬物治療の展望～
SGLT2阻害薬による合併症予防の可能性～」
埼玉医科大学総合医療センター
内分泌・糖尿病内科 教授 松田 昌文 先生

2017年10月27日 『IBD患者さんへのトータルサポートを考える会 —自己注射製剤の側面支援を学ぶ—』を開催しました

講演1:「自己注射製剤を始める患者さんへのサポート—当施設の取り組み—」
医療法人錦秀会 インフュージョンクリニック
看護師 阪上 佳誉子 先生



阪上 佳誉子先生



植田 剛先生

講演2:「潰瘍性大腸炎、クローン病ってどんな病気?」
奈良総合医療センター 外科 植田 剛 先生

2017年10月28日 『つながろう看護の輪、高めよう看護の力』を開催しました

講演1:「家族とつながる看護の視点
～事例を通して、家族の“視かた”を考える～」
ベルランド総合病院 家族支援専門看護師 井上 敦子



井上 敦子



片山 将宏

講演2:「病院と地域をつなぐ看護専門外来
～高次脳機能障害のある人の生活習慣病悪化を予防するためのケア調整～」
ベルランド総合病院 慢性疾患看護専門看護師 片山 将宏

2017年11月11日 『第6回泉北骨・関節セミナー』を開催しました

講演1:「Dupuytren 拘縮に対する酵素注射療法」
ベルランド総合病院 整形外科 副部長 蒲生 和重



蒲生 和重



菅本 一臣先生

講演2:「すべてがわかる整形外科の診断と治療—画像診断技術の進歩とともに—」
大阪大学大学院医学系研究科
運動器バイオマテリアル寄附講座 教授 菅本 一臣 先生

2017年11月17日 『緩和ケア講演会』を開催しました

講演:「人生の最終段階の意思決定を通して考えるコミュニケーション」
旭川医科大学 緩和ケア診療部 副部長 阿部 泰之 先生



阿部 泰之先生

2017年12月2日 『第11回泉北地区消化器カンファレンス』を開催しました

講演1:「C型肝炎治療における院内、そして病診連携」
ベルランド総合病院 副院長・消化器内科 部長 安 辰一



安 辰一



長谷部 圭司先生

講演2:「日常診療における医師の説明責任
～C型肝炎患者さんの治療機会を奪っていませんか?～」
北浜法律事務所・外国法共同事業
医師・弁護士 長谷部 圭司 先生

2017年12月9日 『第13回保険薬局研究会』を開催しました

講演1:「小児てんかんの診断と薬物治療」
ベルランド総合病院 小児科 部長 沖永 剛志



講演2:「小児病棟の薬剤管理指導について」
ベルランド総合病院 薬剤部 伯井 理恵子

『第3回南大阪内科カンファレンス』を開催しました



2017年度より始めた同カンファレンスですが、これまでは院内の内科が順番に内科専門医のレベルアップのためレクチャーを行ってきました。今回は当院に専門医が常勤していない分野について外部の先生を招聘して講演して頂きました。特別講演は、近畿大学医学部 血液・膠原病内科の船内 正憲教授にリウマチについての講演をお願いしました。

特別講演に先立ち、私からC型肝炎における院内連携についての一般講演をさせていただきました。ウイルス性肝炎は2030年まで撲滅するというWHOの方針にも定められており、治療対象の患者を拾い上げることは急務となっています。今回は当院で行っているシステムについて披露させていただきました。

特別講演の船内教授からは、リウマチ診療の現在の状況を基礎から最新の治療までお話しいただきました。恥ずかしながらこの分野の勉強を全くしていなかった私にとって、疾患の概念の変化、



その治療薬物が非常に増えていることに大きな驚きを感じました。なお、船内教授の教室から週に1度膠原病の専門外来への専門医の派遣を頂いております。

「リウマチ・膠原病をめぐって 最近の話題2017」



近畿大学医学部 血液・膠原病内科
教授 船内 正憲 先生

さて当カンファレンスであります、年3回、その内1回は外部の先生をお招きして特別講演を頂く形での開催を予定しております。

このカンファレンスを通じて、我々だけでなく地域の先生方の内科診療の質の向上につながることを期待しております。ご都合が宜しければ、多くの先生方のご参加をお待ちしています。

ベルランド総合病院
副院長／消化器内科 部長
安 辰一

次回の予定 3月15日(木)

場所：ベルランド総合病院
担当：呼吸器内科

※詳細につきましては当院ホームページにてお知らせ致します。

いづみ健老大学「市民公開講座」

2017年度 いづみ健老大学主催 市民公開講座が開催されました。当日は約250名の方にご参加いただき、当院から講師として医師、認定看護師が講演いたしました。そちらの内容を一部で紹介させていただきます。

主催：NPO法人いづみ健老大学
後援：堺市
2017年9月19日



「我慢大敵 こんな時ほど救急車を呼ぼう」



ベルランド総合病院
集中治療室 主任
救急看護認定看護師
友田 新二

近年、救急搬送件数が年々増加する中、コンビニ受診の増加・不必要な救急車の使用など、救急資源の適正利用が全国消防庁からも呼びかけられています。私自身、今回の講座テーマとして、救急車を早く呼ぶ必要がある状態と、そうでない状態を早期に見極め、救急車の適正利用に繋げて頂きたいと思い、循環器疾患を中心に企画しました。約250名が参加した会場からは、実際に救急車を呼んだ事

がある方も多数おられ、「明日は我が身」と言わんばかりに、自分のことのようにメモを取りながら聴講される参加者も多数おり、大学を通じて健康に対する一般市民の意識の高さや、学習意欲の高い地域住民に囲まれた医療圏なんだと改めて感じる事が出来ました。

このような講座を通じて、今後も地域住民に対する救急教育を実践していきたいと改めて感じる一日となりました。

「心臓血管外科の病気“動脈瘤”を知ろう」



ベルランド総合病院
心臓血管外科 部長
南村 弘佳

高齢者人口の増加により、腹部大動脈瘤手術症例が増加していることから、動脈瘤の基本的な知識や原因と診断法を説明し、特に腹部大動脈瘤の治療法について詳説しました。従来は開腹し動脈瘤を直接露出し、動脈を遮断して人工血管を縫合して取り替える人工血管置換術が行われてきたこと、最近は大動脈を切開し、細いカテーテルを挿入してばね付きの人工血管(ステントグラフト)を動脈瘤の内側に装着するステントグラフト内挿術

(EVAR)が行われていることを、図と写真にてわかりやすく話しました。

EVARは低侵襲であることから、高齢者や合併症のため開腹手術が困難な例に対しても手術が可能で、当院心臓血管外科で多く施行されていることを紹介しました。動脈瘤のリスク因子のある方にはCT検査を受けて頂くことを勧め、日常の血圧測定的重要性と禁煙の必要性について言い添え結びました。

「心臓の血管の病気“狭心症”と“心筋梗塞”」



ベルランド総合病院
副院長
循環器内科 部長
片岡 亨

日本人の死因第2位である心疾患の中で、緊急性の高い狭心症と心筋梗塞について説明させて頂きました。心筋を養う冠状動脈が狭窄あるいは閉塞する疾患であり、病状の進展が非常に早く、AEDなどによる除細動が必要な致死的不整脈、心臓のポンプ機能が破綻し出現する心不全、心筋が破れる心破裂などの合併症を来すため、適切なタイミングでの受診が重要であり、特に

胸痛の程度や頻度が増悪している方には、緊急受診が必要であります。更に予防のための食事や適切な運動、危険因子のうち、ご自身の努力で解決出来る禁煙の重要性について紹介致しました。非常に熱心にメモを取りながら聴講頂く姿も見られ、とても素晴らしい雰囲気の中で講演させて頂き、この地域の心臓疾患を担う責任感を再認識する貴重な機会となりました。

第112回 近畿病歴管理セミナー 開催 「医療事故調査制度と診療記録のあり方」



基調講演

「医療事故調査制度と 開示に耐え得るカルテ記載」

9月30日（土）にベルランド看護助産専門学校において、第112回近畿病歴管理セミナー『医療事故調査制度と診療記録のあり方』を開催しました。

基調講演では、医師であり弁護士でもある北浜法律事務所・外国法共同事業 長谷部 圭司先生より、医療事故調査制度と診療記録の重要性、開示に耐え得るカルテ記載のポイントについてご講演頂きました。また、教育講演では、当院クオリティ管理センター 楠本 茂雅部長より、チーム力強化による医療事故防止・医療安全の向上、多職種記録の重要性についての講演があり、180名を超す参加者からは時間が足りなくなるほどたくさんのご質問を頂き、盛況のうちに終わることができました。

医療機関は、医療法等により診療記録を一定期間適切に保管する義務を負うと同時に、個人情報保護法により患者さんから情報開示請求があれば適切に対応する義務を負います。セミナーに参加された各施設においても開示申請は近年増加していると報告されており、私たちもカルテ開示に耐え得る、より質の高い記録と適切なカルテ開示体制を心掛けていく所存です。

企画室 主任 六浦 亮人



北浜法律事務所・外国法共同事業
医師・弁護士 長谷部 圭司 先生

教育講演

「チーム医療で防ぐ医療事故 ～多職種による記録の重要性～」



ベルランド総合病院 クオリティ管理センター
部長 楠本 茂雅

パネルディスカッション

カルテ開示の現状と開示に対する備えとして

1. 「リスク回避に繋げる記録監査の現状」
2. 「病院全体で向き合うカルテ開示」
3. 「当院での法律に基づいたカルテ開示への取り組み」
4. 「当院のカルテ開示の現状」



International Conference on Cancer Nursing (ICCN) 2017に参加して

ICCNとは欧米やアジアなどの各国から、がん看護に携わる看護師や看護研究者が集い、がん看護の実践、教育、研究について討議し、質の高い看護実践と研究を追求するため、毎年開催されている国際会議。



学会テーマ

「研究と実践の融合と発展」

今回、日本がん看護学会国際活動委員会委員の活動の一環として、Asian Oncology Nursing Society (AONS) 主催の International Partner Joint Session にシンポジストとして招聘されました。

International Partner Joint Session には私を含めて2名の発表者が選出され、私は現在進行中の兵庫県立大学大学院の教員グループとの共同研究の成果について発表し、意見交換を行ないました。

まず、日本におけるがん罹患率、死亡率の状況と、がん対策基本法の取り組みを述べました。国のがん対策の一環として専門家教育が進められており、がん看護専門看護師も700名以上輩出され、看護教育・研究者との共同研究を通じ、看護実践の質向上に努めていることを伝えました。その実践例として、2013年より開始し、現在も進行中のがん治療中に起こる排便障害と対処に関する実態調査および看護介入の検証の成果について、プレゼンテーションを行いました。

がん化学療法中の排便障害は多くのがん患者が体験していますが、その実態や症状マネジメントに関する研究は少なく、そのようながん化学療法中の排便障害と日常生活への影響、対処の実態を明らかにすることを目的としました。対象者が体験している排便障害の特徴として、症状の程度は軽～中程度が多く、また多くの対象者は過去の自分の体験から症状マネジメントの方略を見出して対処を行っていました。しかし、少数ではあるが通常パターンを逸脱していることを認識せず、また医療者にも伝えることもできなかった対象者がいました。排便障害は個々の認識、習慣、羞恥心が関連し個別性が高い症状です。看護師はこの個々の



がん看護専門看護師

緩和ケア病棟 科長補佐 江藤 美和子

体験と対処を重視して関わり、前もって必要な情報、知識を伝え、個別性に依りて技術の提供を行うことが重要であることを述べました。

座長のオーストラリアクイーンズランド大学教授 Patsy Yates氏は、この研究が意義あるものとして継続していくことをご指導いただきました。そして、現場の看護管理者を行いながら、どのように実践と研究を継続させていくのかと質問をいただきました。専門看護師と看護研究者が協働し、研究計画立案とデータを収集、成果分析を共に行ない、看護への意義を明確化することが大切ではないかと考えて、そのように返答を行ないました。Dr. Patsy Yates氏は、がん看護の労働環境、症状マネジメント、がん看護教育などを専門とされており、今後ご助言くださるといってお言葉をいただきました。このような貴重なつながりを大切に、今後も専門看護師および緩和ケア病棟管理者として、どのように発展していくかを考えていきたいと思えます。



ベルランド総合病院への交通

電車とバスをご利用の場合

泉北高速鉄道「深井駅」より

- 南海バス〈泉ヶ丘行き・あみだ池行き〉
- 東中学校前バス停下車徒歩1分
- または〈北野田駅前行き〉高山バス停下車徒歩5分

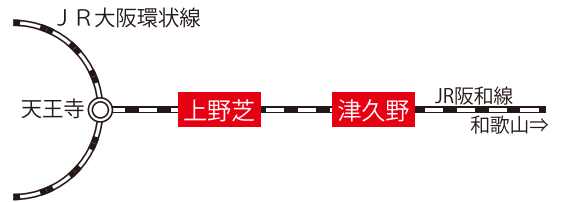
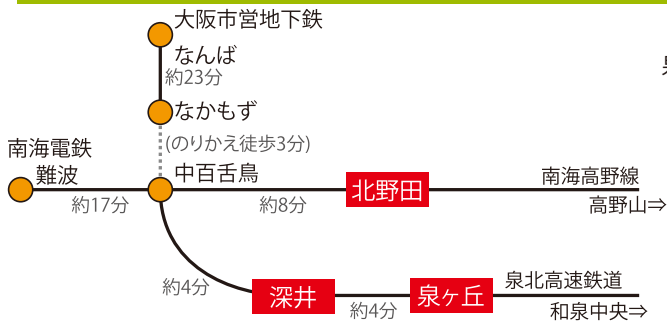
南海高野線「北野田駅」より

- 南海バス〈西区役所前行き・東山車庫前行き・深井駅行き〉
- 高山バス停下車徒歩5分



送迎バスのご案内

泉ヶ丘駅・北野田駅・津久野駅・中百舌鳥駅・深井駅の5駅から発着



泉ヶ丘駅発	ベルランド総合病院発泉ヶ丘駅行き
7:30-13:45 まで 毎時 00・15・30・45 分発	7:20-13:50 まで 毎時 05・20・35・50 分発
14:00-19:30 まで毎時 00・30 分	14:20-19:20 まで毎時 20・50 分
北野田駅発	ベルランド総合病院発北野田駅行き
8:45-17:15 まで毎時 15・45 分発	8:30-17:00 まで毎時 00・30 分発
中百舌鳥駅発	ベルランド総合病院発中百舌鳥駅行き
8:20-17:20 まで毎時 20・50 分発	8:00-17:00 まで毎時 00・30 分発
津久野駅発	ベルランド総合病院発津久野駅行き
8:20-15:20 まで毎時 20 分発	8:00-15:00 まで毎時 00 分発
深井駅発	ベルランド総合病院発深井駅行き
8:35-15:35 まで毎時 35 分発	8:00-15:00 まで毎時 00 分発

